

## 第6分科会 川✕学生 分科会

テーマ：Think of river ～川への想いを語ろう～

### 【参加者】71名

1. 熊谷西高等学校：13名
2. 越谷北高校生物部：10名
3. 埼玉工業大学 自然環境プロジェクト：3名
4. 栄東高等学校（卒業生）：1名
5. 草加パドラーズ：3名
6. 千葉工業大学生物圏環境研究室：2名
7. 埼玉県立本庄高等学校：1名
8. 東京学芸大学 水辺の学びデザインプロジェクト：2名
9. 東京学芸大学吉富友恭研究室：4名
10. 獨協埼玉中高サイエンス部：3名
11. 獨協大学米山ゼミ「伝右川再生に向けた支援プロジェクト」チーム：5名
12. 埼玉県河川環境団体連絡協議会：2名
13. NPO法人 越谷ふるさとプロジェクト：1名
14. 和土住宅中央用水をきれいにする会：1名
15. 埼玉県南部漁協：1名
16. 埼玉県立自然の博物館：2名
17. 戸田の川を考える会：1名
18. 比企の川づくり協議会：1名
19. 福川を愛する会：1名
20. 三郷の川をきれいにする会：1名
21. 個人参加：2名
22. 中央環境管理事務所：1名
23. 越谷環境管理事務所：1名

### 【開会・趣旨説明】

- ・学生交流の分科会を開催した趣旨説明(司会より)
- ・今までも学生サークルの参加はあったが、学生同士の交流を目的とした分科会は昨年度（平成28年度）初めて立ち上げた。
- ・そこでの議論を踏まえ、今年度は学生主体で企画・運営する分科会とした。そのため、12月にはプレ学生分科会を行って、企画・運営の在り方を検討した。
- ・本日の企画は、まず、ポスターセッション参加の団体から各2分の発表を行う。休憩を挟

**参考1:平成29年度学生分科会【川の再生交流会報告書より】**

み、3つのテーマに分かれ議論を行う。テーマは1:河川の生物・水質、2:河川に関わる防災教育、3:河川の文化である。テーマごとの議論は30分ずつ2回行うこととし、議論概要を発表する。

**【発表】**

	発表者氏名（個人名）	ポスターのタイトル
1	埼玉県立熊谷西高校 SSH（石川青空・北原悠真・中島雄斗・村山京平）	埼玉県立熊谷西高校自然科学部 シアノバクテリアの液肥に対する増殖の研究
2	埼玉県立熊谷西高校 SSH（中嶋将太・渕上旺樹）	埼玉県立熊谷西高校自然科学部 田んぼの甲殻類の休眠打破について
3	埼玉県立熊谷西高校 SSH（黒濱寛生・見ル野文杜・瀬戸友貴・小林稜介・中嶋将太・松北凜花）	埼玉県立熊谷西高校自然科学部 大滝げんきプラザ周辺の森林調査報告
4	埼玉県立越谷北高等学校生物部	越谷北高校周辺の水生生物を探る①
5	埼玉県立越谷北高等学校生物部	越谷北高校周辺の水生生物を探る②
6	埼玉県立本庄高等学校（清水 優輝）	赤平川水系秩父イワナの生息分布
7	草加パドラーズ	綾瀬川クリーン大作戦
8	獨協大学米山ゼミ「伝右川再生に向けた支援プロジェクト」チーム	伝右川プロジェクト活動報告～学生が行う川づくり～
9	東京学芸大学吉富友恭研究室（大木航央）	水害に着目した防災・減災教育のための教材利用に関する研究
10	東京学芸大学吉富友恭研究室（小徳 真）	祭り・神事場としての河川
11	東京学芸大学吉富友恭研究室（高榮晋平）	上越地域の小河川に生息する回遊性底生魚類の生態に関する基礎研究
12	東京学芸大学 水辺の学びデザインプロジェクト（鈴木享子・神村佑・吉富友恭）	スペシャル・インタレスト・ツアーを通じた水辺の環境学習
13	獨協埼玉中学高等学校サイエンス部水班 船生 悠貴、関田 晃仁	新方川の水質調査結果報告 ～透視度、溶存酸素量、pH測定より明らかとなった環境指標としての「身近な河川」の有効性～
14	埼玉工業大学 自然環境プロジェクト（山崎 雄也）	

## 【テーマごとの議論】

### (1) テーマ1：河川の生物・水質（その1）

座長：獨協大学米山ゼミ「伝右川再生に向けた支援プロジェクト」チーム  
飯島さん

- ・一回目は川の水質についての議論を行いました。議題は草加市での工業排水による水質汚染の対策方法について各自の意見を聞きどのように汚染を防止するかを話し合いました。ですが、一回目の議論では細かなタイトルが決まっていなかったため、参加者がどのような事を話してよいか分からず活発な議論には発展しませんでした。
- ・それを踏まえ、二回目の議論では各自の持つ課題を抽出しテーマの細部を決め議論を進めました。二回目の議論は概ね問題はなかったのですが、高校生と大学生の知識差が大きく発言できていない人がいたことが気になりました。

### (2) テーマ1：河川の生物・水質（その2）

座長：埼玉県立越谷北高等学校生物部 川上さん

- ・1回目と2回目を通して、外来種について議論しました。様々な外来種問題について話し合いながら、外来種問題の対策や、外来種との関わり方について議論しました。在来種を守ることや、共生の道を探してみるなど、様々な意見がでました。

### (3) テーマ2：河川に関わる防災教育

座長：東京学芸大学吉富友恭研究室 大木さん

- ・河川は私たちに癒やしや潤い等の恩恵を与えてくれる一方、自然災害をもたらす一面もあります。自身と河川の関わりを思い出し、どのような経験や伝達手段が水害意識を高める要因となり得たか、また今後どのような情報を提供することで水害への意識を高めていくことができるかというような議論を深めていきました。実際の河川を見て学ぶという体験活動があげられた中、水源から河口までの河川全体をどのように捉えていくかという点も課題としてあがりました。

### (4) テーマ3：河川の文化

座長：東京学芸大学吉富友恭研究室 小徳さん

- ・河川と文化というテーマで、1回目は参加者がこれまで河川で経験した活動をもとに、「人が関わる場」としての河川の役割について具体例を分類しました。2回目は文化と河川の環境というテーマで、「祭りで川にものを流すこと」の可否について、事例を挙げて議論しました。

## 【分科会開催後の感想・意見】

### [個人発表について]

- ▼発表時間が短すぎる。-2分では足りない。
  - ▶最低3分は必要。
- ▼発表の順番が名簿順であったため、発表に慣れていない高校生が戸惑っていた。
  - ▶大学生→高校生というような流れをつくる。
- ▼2分経過した時点でタイムキーパーのオブザーバーが発表者にまとめをするように強く働きかけていた。
  - ▶そもそも時間設定に問題があったが、多少の延長を認めてもよい。
- ▼スライドの統一性がない。
  - ▶当初想定していたポスターを会場に持ち込む形式でよかったのでは。
- ポスターセッション時間に見られなかった他の参加者の発表内容を知ることができた。
- 大勢の前で発表する良い機会だった。(学会ほどフォーマルではなく、経験を得るためには最適の場)
- 学会等に比べても積極的に質問やコメントをくれる人が多かった。

### [グループワークについて]

- ▼前後半で分けていたため、1つの議論に充てられる時間が短い。
  - ▶議論が熟さないまま強制終了することを避けるため、前後半に分けずに通しで行うほうがいいのでは。30分は話し合いの時間が欲しい。
- ▼各人が興味を持つテーマは「生物」「防災」「文化」であっても多岐にわたるため、グループ分けの段階で戸惑う参加者が多かった。
  - ▶あらかじめ各テーマで行う議論や活動の内容を伝えておくべきだった。
  - ▶新たなテーマを持ち出すより、ポスターをもとに自由に語り合う形式でよかったのでは。(実際、ポスターセッションでは自身の発表に手一杯で他者のポスターを見て回る時間が限られていた。)
- ▼ファシリテーターの影響力が強い。
  - ▶「意見交換」よりはファシリテーターが用意したテーマについての議論となっており、参加者は「受け身」の姿勢になってしまう。ファシリテーターは「進行役」としてふるまうべきだった。(議題は必要であるが。)
- ▼グループワークを行う意図が見えない。
  - ▶何について語るのか、何を指すのか、何を語ることが望ましいのか、目標をはっきりさせる。(グループ幹事としても何をすべきだったのか不明確のまま進行した形。)
- ▼最後にオブザーバーや聴講者から意見やアドバイスをもらう時間を設けてもよいのではないか。(まとめの時間も含め、分科会の締めをしっかりとすべきだった。)

- ファシリテーターの問いかけに対して、高校生がしっかりと反応を示してくれた。
- グループでのワークショップ形式の意見交換は、大学・社会に出てから役立つことであるため、座学が中心の高校生にとって良い経験になったのではないかと感じた。
- お茶やお菓子を食べながら話ができれば、もっと気楽な雰囲気になったのではないかと感じた。

### 【その他】

- 朝から夕方まで仕事のある（役割のある）学生への交通費か弁当の支給があると助かる。
- オブザーバーの方が、学生の仕事を何度も褒めてくださった。
- ポスターセッションでは、発表者が他の発表を見る時間がなく、その後すぐに分科会になってしまうため、ポスターセッションを入れ替え式（二部構成）にするなどして見る時間を設けた方がよいのではないかと感じた。
- 分科会のワークショップは、やはり学生だけで構成する形にしてよかったと感じた（ただ、座長の大学生の負担はかなり大きいかもしれない）。オブザーバーは、別枠で何かコメントや感想を言える時間があってもよいのかもしれない。
- 全体的には、高校生も大学生もとてもいい経験になったと思う。今回のことを踏まえて、来年度より充実した会になるのではないかと感じた。

